

—食と緑が支える豊かな「あま」をめざして—

食と緑の海部地域レポート

2023

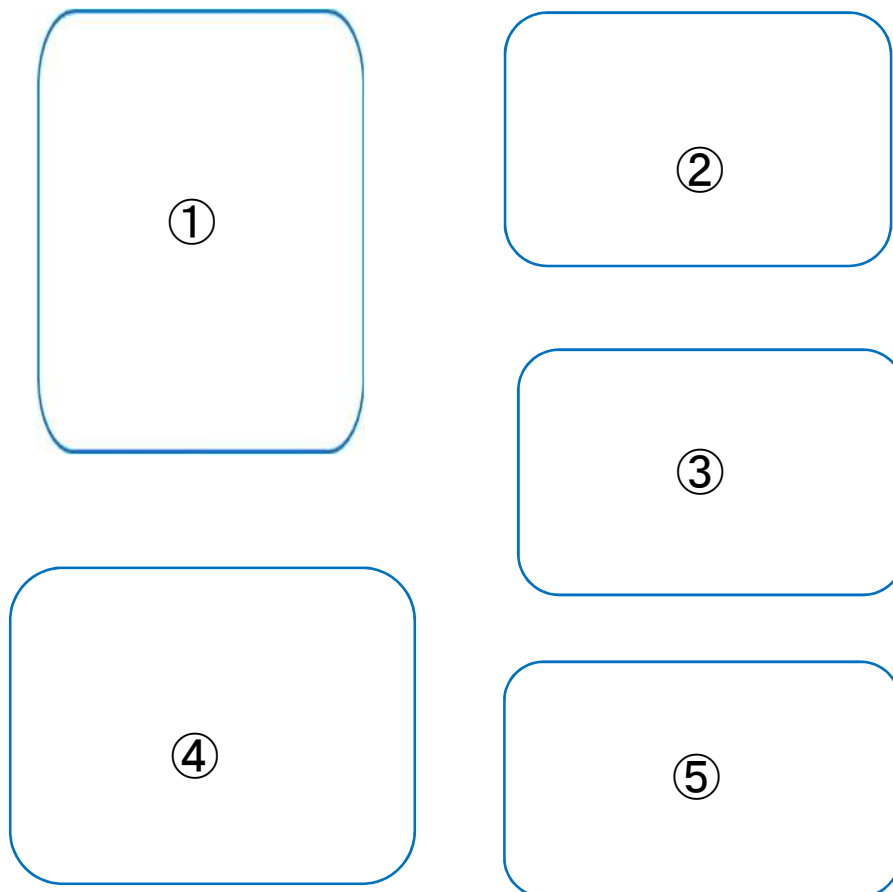
(2022年度の取組報告)



2023年8月
海部農林水産事務所



==表紙の写真説明==



- ①海部苗木花き展示品評会で愛知県知事賞を受賞した鉢花（ブーゲンビレア、受賞者・蟹江町）（弥富市）
- ②金魚日本一大賞を受賞した金魚（琉金）（弥富市）
- ③レンコン栽培において水管理の遠隔操作を可能にした水位センサーと自動給水栓（愛西市）
- ④新規就農セミナー「農作業安全及び農業機械研修」（弥富市）
- ⑤建設中の排水機場で行った現場見学会（愛西市）

食と緑の海部地域レポート 2023 目次

1	食と緑の海部地域レポート作成の趣旨	1
2	重点推進事項の取組状況	2
(1)	担い手の確保育成	
	取組目標 1 : 新規就農者の確保	2
(2)	水田農業の維持・発展	
	取組目標 2 : 水田の活用割合	3
(3)	園芸産地の活性化	
	取組目標 3 : 産地戦略に位置付けられた生産・出荷用の機械、施設等の整備を支援	3
	取組目標 4 : 地産地消推進のため、新たな「いいともあいち運動」ネットワーク会員・推進店の新規加入	4
	取組目標 5 : 農林水産物の消費拡大・理解促進イベントの開催や支援	5
(4)	農業生産基盤の維持	
	取組目標 6 : 農業生産基盤の維持のための用排水施設の整備更新	8
(5)	農村の防災・減災対策の推進	
	取組目標 7 : 農業用排水機場の整備更新	9
3	重点的な取組の目標達成状況	10
4	「食と緑の基本計画 2025 海部地域重点推進プラン」の SDGs 達成への貢献	11

1 食と緑の海部地域レポート作成の趣旨

愛知県は、将来にわたる安全で良質な食料等の安定的な供給の確保とその適切な消費及び利用、農地や森林等の有する多面的機能の発揮による安全で良好な生活環境の確保を基本理念とする「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例」を2004年4月に施行しました。

この条例に基づき、食と緑に関する施策の基本的な方針として、2005年に「食と緑の基本計画」を策定して以来、5年ごとに見直しを行い、現在は第4期目の計画となる「食と緑の基本計画2025」（以下「基本計画」という。）を2020年12月に策定、公表しました。

海部農林水産事務所では、この基本計画のめざす姿の実現に向け、海部地域の特徴と課題を踏まえた具体性の高い実行計画として、海部地域重点推進プラン（以下「プラン」という。）を2021年3月に策定し、基本計画の推進とともに地域として重点的に推進しています。

この地域レポートは、プランの進行管理の一環として、プランの重点推進事項を的確に推進するため、2022年度に実施した主な取組の内容や地域の特徴的な取組事例を取りまとめたものです。



「食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくり条例(平成十六年三月二十六日条例第三号)」

== 抜 粋 ==

第三条 食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくりは、次に掲げる事項が推進されることを基本理念として行われなければならない。

- 一 将来にわたって安全で良質な食料等の安定的な供給が確保され、かつ、その適切な消費及び利用が行われること。
- 二 将来にわたって森林等の有する多面的機能が適切かつ十分に発揮されることにより、安全で良好な県民の生活環境が確保されること。

2 重点推進事項の取組状況

(1) 担い手の確保育成



取組目標 1：新規就農者の確保

○円滑な就農に向けた支援

【取組内容】

2022年度から生産者組織とJAあいち海部等関係機関で構成する「新規就農支援協議会（イチゴ、ネギ、ミニトマト、レンコン(申請中)）」等で新規就農希望者を研修生として受け入れて、新たな担い手として育成する取り組みを開始しました。4人の研修生に対して2年間で栽培技術や知識が習得できるよう、実習や座学を通して支援をしています。

また、新規就農相談を通じて、自らの経営計画の作成に対して助言を行い、認定新規就農者となるよう支援を行ってきました。さらに、新規就農支援に係る各種制度が有効に活用できるよう、関係機関と協力体制のもと支援をしました。



【研修生と指導農家】(愛西市)

< 新規就農者数 >

(人)

区分	2011年度～2015年度	2016年度～2020年度	2021年度	2022年度	小計
新規学卒	16	15	0	1	1
Uターン	28	29	1	2	3
新規参入	10	16	1	2	3
中高年Uターン	6	9	1	2	3
中高年新規参入	2	0	1	1	2
合計	62	69	4	8	12

※中高年：45歳以上65歳未満

※各年度とも前年5月2日から当該年5月1日までの1年間に就農した人数

【今後の取組】

各新規就農支援協議会等に対しては研修生募集への助言と、現研修生には技術や知識習得と経営計画作成や就農準備等の支援を関係機関と協力して進めます。就農希望者に対する就農相談は、農業大学校に設置された「農起業支援ステーション」及び管内JA、市町村と連携して対応します。また、管内市町村とJAの担当者等で構成する「新規就農者連絡会議」で、就農希望者や新規就農者に関する情報を共有し円滑な就農を支援します。

(2) 水田農業の維持・発展



取組目標 2 : 水田の活用割合

○担い手への一層の農地集積

【取組内容】

農地集積を目的として2014年度から始まった 農地中間管理事業や、市町村における人・農地プランの策定等の取組により、海部地域における2021年度末時点の農地の担い手への集積面積は3,903haとなり、6年間で1,135haの増となりました。

集積率は53.3%と県全体の集積率41.0%を大きく上回り、県内でも有数の先進地域となっています。



【今後の取組】

2022年度の農業経営基盤強化促進法改正により、人・農地プランが法定化されて地域計画となりました。県は、市町村における地域計画の策定作業への支援を通じて、農地の担い手への集積を進めます。

(3) 園芸産地の活性化



取組目標 3 : 産地戦略に位置付けられた生産・出荷用の機械、施設等の整備を支援

○補助事業の活用

【取組内容】

あいち型産地パワーアップ事業や施設園芸省エネルギー化施設設備整備事業を活用し、「いちご」、「トマト」、「れんこん」及び「鉢物」の4品目において産地戦略に基づく農業機械の導入やハウスの新設などを支援しました。

【今後の取組】

今後もあいち型産地パワーアップ事業等の補助事業の活用を促進し、産地の生産力の強化等を図ります。



【水掘ポンプ (れんこん)】(愛西市)

〈あいち型産地パワーアップ事業〉

産地戦略の品目	市町村	件数	導入機械及び施設
いちご	愛西市	4	自走ラジコン動力噴霧器、鉄骨丸形パイプハウス一式、半自動フィルム包装機 など
トマト	弥富市	4	環境モニタリング装置、炭酸ガス発生装置、養液栽培装置 など
れんこん	愛西市	8	水田除草機、トラクター、バックホー、水掘ポンプ など
鉢物	蟹江町・飛島村	3	常温煙霧機、頭上灌水装置、ハウス新設一式

〈施設園芸省エネルギー化施設設備整備事業〉

産地戦略の品目	市町村	件数	導入機械及び施設
トマト	愛西市・弥富市	4	エコ・ステンフィン、循環扇、統合環境制御システム、ヒートポンプ



取組目標 4 : 地産地消推進のため、新たな「いいともあいち運動」ネットワーク会員・推進店の新規加入

○ 「いいともあいち運動」等による地産地消の推進

【取組内容】

「いいともあいち運動」ネットワーク会員6会員と推進店7店舗を新規登録しました。

また、いいともあいちフェイスブックにおいて、新規ネットワーク会員及び推進店、地産地消の商品やイベント等の情報を発信しました。



【推進店の菓子】(愛西市)

【今後の取組】

今後もいいともあいちネットワーク会員及び推進店の加入促進を行うとともに、いいともあいちフェイスブック等による海部地域の会員や地産地消の商品、イベント等の情報の発信を行います。

取組目標 5 : 農林水産物の消費拡大・理解促進イベントの開催や支援

○農林水産物への理解促進のためのイベント開催、支援

- ・海部地域いいともあいち即売会の開催

【取組内容】

「いいともあいち運動」推進の取組として、2022年11月5日に、JAあいち海部グリーンセンター津島店愛菜耕房店頭で、海部地域いいともあいちネットワーク会員による地元産のれんこんやいちご等を使用した加工品の即売会を開催しました。

来店者へモリゾーとキッコロが印刷された「いいともあいち運動」のリーフレット及び「いいともあいち地産地消デジタルスタンプラリー」のチラシを配布し、「いいともあいち運動」をPRしました。



【いいともあいち即売会】(津島市)

【今後の取組】

今後も海部地域いいともあいち即売会等の開催により「いいともあいち運動」を推進します。

- ・「海部苗木花き展示品評会即売会」の開催

【取組内容】

2022年5月7日、8日の2日間、弥富市の海南こどもの国において、海部苗木花卉生産組合連合会と県の共催で「海部苗木花き展示品評会即売会」を開催しました。

また、子ども向けの花育教室(各日100人参加)も実施し、講師に教えてもらいながら、花苗の寄せ植えを体験してもらいました。



【海部苗木花き展示品評会】(弥富市)

【今後の取組】

今後も関係団体が行う活動を支援するなどして、県民に花と緑の潤いのある生活を提供するとともに、花きの消費拡大に取り組めます。

- ・「森林（もり）の学習」の開催

【取組内容】

森林の働きや木材の性質を知り、親しみを感
じてもらうために「森林（もり）の学習」を愛
西市立草平小学校始め2校で延べ3回開催し、
88人の児童が参加しました。

開 催 校
愛西市立草平小学校
弥富市立十四山西部小学校（2回実施）



【森林の学習】（愛西市）

【今後の取組】

森林の少ない海部地域においても、児童生徒への森林環境教育が必要とされているこ
とから、今後も小中学校への訪問授業を実施します。

- ・「きになる?!木のおへや」の開催

【取組内容】

2022年11月6日に、弥富市の海南こどもの
国で開催された「秋まつり」において、海部木
材組合と県の共同で「きになる?!木のおへや」
と題したイベントを開催しました。

本県産の木を使用したコースターづくりやミ
ニバットの製作実演等を実施し、延べ242人の
子どもたちが参加しました。



【ミニバットの製作実演】（弥富市）

【今後の取組】

都市（まち）の木造化推進法が制定され、各地で民間建築物を含めた木材利用促進の
ための取組が進められています。今後もイベント等において県民が木材に触れる機会を
提供することで、木材利用の普及啓発に取り組みます。

- ・「金魚日本一大会」の開催

【取組内容】

2022年10月23日に、弥富市の海南こどもの
国において、弥富金魚漁業協同組合主催の金魚
の品評会「金魚日本一大会」が開催されました。

新型コロナウイルス感染症の影響で3年ぶり
の開催となったため、立ち上げから開催に至る
まで、弥富市と連携して支援しました。

当日は、盛況に開催され、来場者には普段見



【金魚日本一大会】（弥富市）

ることの少ない立派な金魚を間近に親しんでもらいました。

【今後の取組】

近年は、趣味の多様化などによる需要が低迷するとともに、生産地の都市化や生産者の高齢化と後継者不足などにより、金魚の生産量は減少傾向にあるため、今後も本県の金魚養殖業の振興を目的に、関係機関や関係団体の実施するイベントなどに連携、協力します。

〈その他の取組〉

・イベント出展への支援

2022年11月5日に、海南こどもの国で開催された「秋まつり」に海部苗木花卉生産組合連合会が出展し、子ども向けの花育教室（100名参加）を実施しました。

・海部花き連フラワーウォークの支援

海部苗木花卉生産組合連合会が実施する活動を支援し、海部総合庁舎内県機関及び市町村の協力を得て、年6回実施しました。

・畜産物の消費拡大への支援

2022年11月26日、27日に、JAあいち海部本店で開催された「還元祭」に海部畜産組合連合会が出展し、JAあいち海部が販売する「愛西ポーク」の購入者に対し、地元産の鶏卵（各日100パック）を配付しました。

・金魚の学校の開催

親子で金魚の知識や飼育方法を身に付けてもらうために、弥富金魚漁業協同組合及び水産試験場と共同で3会場計7回開催（約200名参加）しました。

・イベントへの出展

弥富金魚漁業協同組合及び弥富市共催の「やとみの金魚脱出大作戦」に、水産試験場と共同で出展し、金魚飼育相談を延べ7会場で実施しました。

(4) 農業生産基盤の維持



取組目標 6 : 農業生産基盤の維持のための用排水施設の整備更新

○特定農業用管水路特別対策事業等 用水管工事

【取組内容】

津島市、愛西市、弥富市、あま市、蟹江町及び飛島村の 15 地域で、老朽化した石綿セメント管や塩化ビニル管の更新を行いました。

【今後の取組】

未改修の石綿セメント管等がまだ多く残っているため、引き続き更新を進めていきます。



【石綿セメント管の撤去】(弥富市)

石綿セメント管除去対策 進捗状況

全 体 用 水 管 延 長			2022 年 度 ま だ の 実 施 状 況			2022年度までの進捗率	
	うち石綿管	石綿管割合		うち石綿管	石綿管割合	用水管更新	石綿管除去
(km)	(km)	(%)	(km)	(km)	(%)	(%)	(%)
709.4	389.9	55.0	420.2	177.0	42.1	59.2	45.4

○地盤沈下対策事業等 排水路工事

【取組内容】

津島市、愛西市、弥富市及びあま市で地盤沈下等により排水機能が低下した排水路や老朽化した護岸等の改修を 9 路線で行いました。

【今後の取組】

早期完了できるように今後も引き続き改修工事等を進めていきます。



【排水路の改修】(津島市)

(5) 農村の防災・減災対策の推進



取組目標 7 : 農業用排水機場の整備更新

○たん水防除事業・緊急農地防災事業

【取組内容】

2022年度に観音寺排水機場（蟹江町）の更新工事を完了しました。

また、津島市、愛西市、あま市、蟹江町、飛島村及び稲沢市に関係する8か所の排水機場で更新工事等を行いました。



【排水機場の整備】（蟹江町）

また、排水機場等の役割、必要性についてPR活動を行っていきます。

5か所の排水機場（愛西市、弥富市、あま市）において、小学生を対象にした排水機場学習会を6回開催しました。

市町村	排水機場名	学校名
弥富市	鍋田南部排水機場	大藤小学校
弥富市	鍋田南部排水機場	栄南小学校
あま市	鷹居排水機場	伊福小学校
愛西市	鷹場排水機場	開治小学校
		八輪小学校
愛西市	勝幡排水機場	勝幡小学校
弥富市	新孫宝排水機場	十四山東部小学校

参加人数：小学校4年生 174名参加



【排水機場での現地学習会】（愛西市）

【今後の取組】

防災・減災対策を推進するため、今後も引き続き排水機場の整備更新を進めていきます。

市町村別排水機場数一覧

市 町 村	機 場 数
津 島 市	16
愛 西 市	31
弥 富 市	12
あ ま 市	26
大 治 町	15
蟹 江 町	18
飛 島 村	5
合 計	123

3 重点的な取組の目標達成状況

() 内は、延べ数値

重点推進事項	番号	取組目標	実績の推移					
			目標数値	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
担い手の確保育成	1	新規就農者の確保	5年間で60人	4人	8人 (12人)			
水田農業の維持・発展	2	水田の活用割合	100%	105.4%	105.9%			
園芸産地の活性化	3	産地戦略に位置付けられた生産・出荷用の機械、施設等の整備を支援	5年間で5件	4件	23件 (27件)			
	4	地産地消推進のため、新たな「いいともあいち運動」ネットワーク会員・推進店の新規加入	5年間で20会員	7会員	6会員 (13会員)			
	5	農林水産物の消費拡大・理解促進イベントの開催や支援	毎年5イベント	7イベント	10イベント			
農業生産基盤の維持	6	農業生産基盤の維持のための用排水施設の整備更新	受益面積： 5年間で2,194ha	0ha	300ha (300ha)			
農村の防災・減災対策の推進	7	農業用排水機場の整備更新	受益面積： 5年間で1,777ha	1,049ha	252ha (1,301ha)			

4 「食と緑の基本計画 2025 海部地域重点推進プラン」のSDGs達成への貢献

SDGs達成への貢献について

今、様々な場所で耳にするSDGs(持続可能な開発目標)。

自然資本や環境に立脚した食料・農林水産業・農山漁村分野は、SDGsが目指す環境・経済・社会の統合的向上において果たす役割が非常に大きく、他の分野以上にSDGsの実現に貢献することを求められます。

そこで、「食と緑の基本計画 2025 海部地域重点推進プラン」では、SDGsへの貢献を明らかにするため、重点推進事項ごとに、関連するゴールのアイコンを掲載しました。



目標2 飢餓をゼロに

目標達成に向けて、生産性の向上、気候変動等への適応、持続可能な食料生産システムを確保することとしています。

プランでは、夏季高温による品質低下に応じた高温耐性水稻新品種の導入、環境モニタリングデータを活用した施設の制御、ドローンの利用による病虫害防除作業の省力化に取り組むこととしています。

目標5 ジェンダー平等を実現しよう

目標達成に向けて、政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保するとされています。

プランでは、女性農業者が経営主のパートナーとしての意識を持ち、主体的に経営参画していくために40歳代までの女性農業者を対象とした講座等の開催に取り組むこととしています。

目標 8 生きがいも経済成長も

目標達成に向けて、若者や障害者を含む全ての男性及び女性の雇用及び働きがいのある人間らしい仕事等を達成するとされています。

プランでは、就農間もない農業者を対象とした講座等の開催により円滑な就農に向けた支援に取り組むこととしています。

目標 9 産業と技術革新の基盤をつくろう

目標達成に向けて、資源利用効率の向上とクリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大を通じたインフラ改良や産業改善により、持続可能性を向上させるとされています。

プランでは、補助事業等を活用して農業機械等の導入や施設の整備等を推進し、生産・出荷基盤の強化を行うこととしています。また、農業基盤である農地の用水施設の更新にも取り組むこととしています。

目標 11 住み続けられるまちづくりを

目標達成に向けて、気候変動の緩和と適応、災害に対する強靭さを目指す総合的政策及び計画を導入・実施するとされています。

プランでは、用水施設の老朽化や、地盤沈下による機能の低下を防止するため、用水施設の更新を、また、豪雨等による被害を防ぐため、排水施設の更新を行うこととしています。

目標 12 つくる責任使う責任

目標達成に向けて、自然と調和したライフスタイルに関する情報と意識を持つようにするとされています。

プランでは、農林漁業を応援・体験する機会の提供や、食育を通じた健全な生活、「いいともあいち運動」による地産地消の推進などに取り組んでいます。

